

東遊園地

HIGASHI-YUENCHI

まちに開かれた公園づくり

東遊園地再整備



三宮駅

新神戸駅

公園名

東遊園地

面積

2.7ha (北側1.9ha、南側0.8ha)

旧居留地

フラワーロード相生田川

生田川

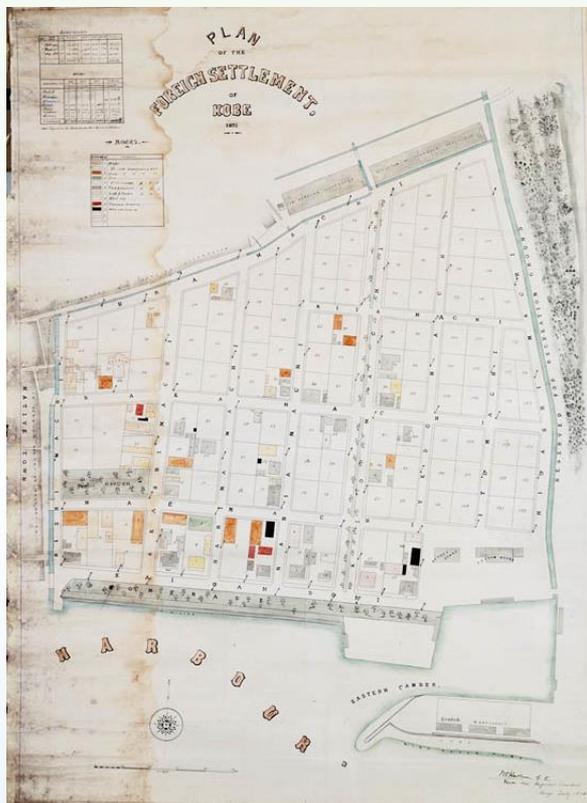
神戸市役所

東遊園地

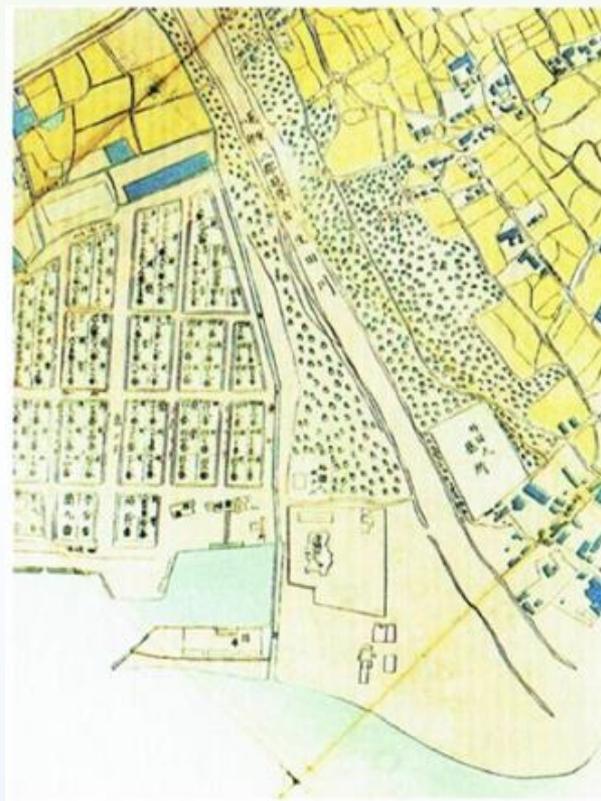
空撮：Google Map



1872 (明治5)	日本政府から居留地に対してレクリエーション用地として貸与
1875 (明治8)	「内外人公園地」として開園
1899 (明治32)	条約改正により居留地が返還され、神戸市の公園「加納町遊園地」に
1922 (大正11)	「東遊園地」に改称



居留地計画図 1870年



兵庫神戸実測三千分箇之縮図
全国の第壹部 1872年



兵神市街之図 1880年



再整備前の東遊園地



東遊園地は、都心のまちと海を結ぶ重要な位置にある

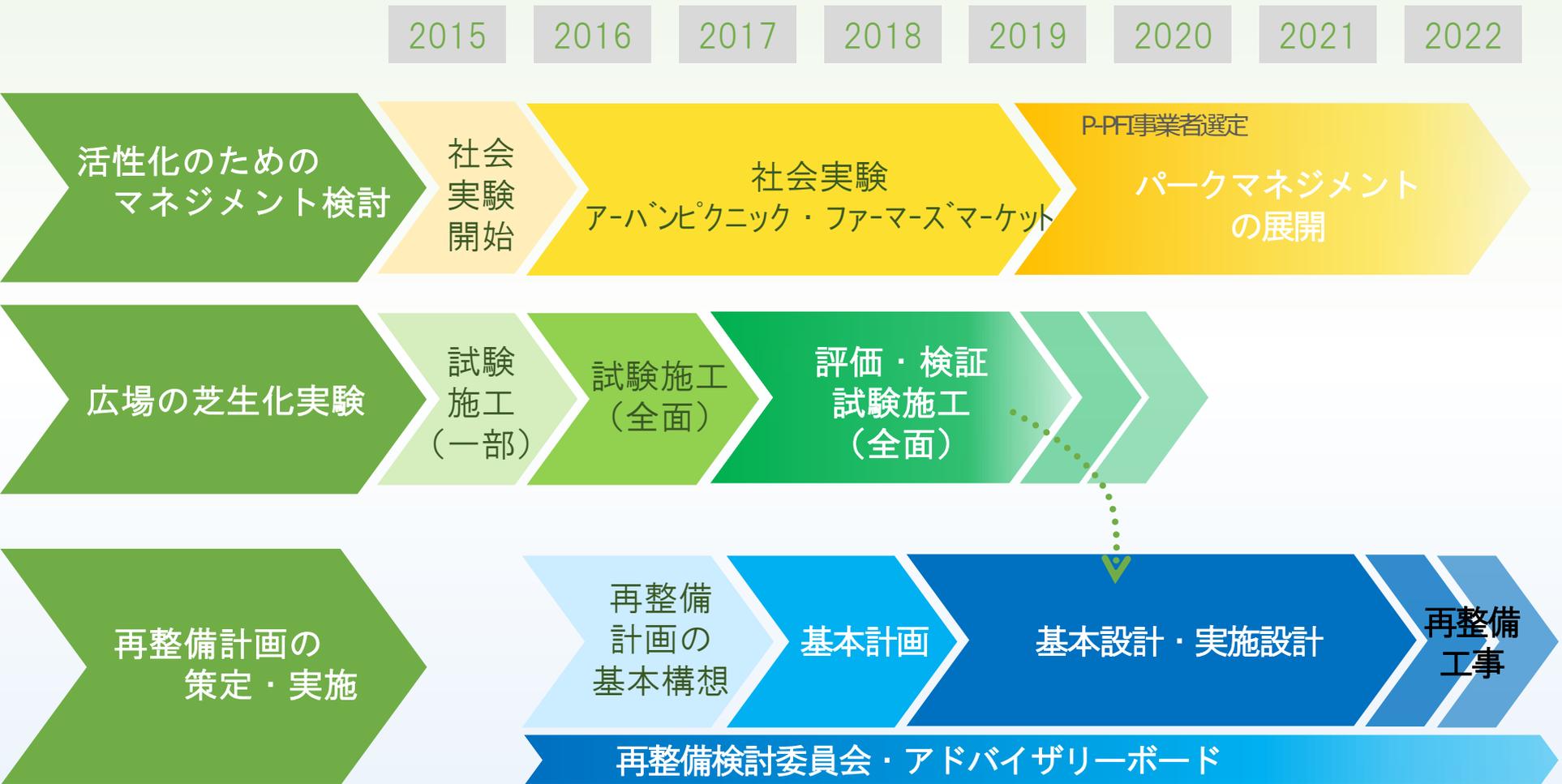
- 関連事業
- KOBEParkレットの整備
 - 三宮ブラッツのリニューアル
 - 葦合南54号線の整備
 - フラワーロード『光のミュージアム』の整備
 - コミュニティサイクル「コペリン」の拡充
 - 三宮クロススクエアの整備
 - 新たなバスターミナルの整備
 - メリケンパークの再整備
 - 神戸ポートオアシスの建設
 - 新港突堤西地区再開発事業
 - 本庁舎2号館再整備等



東遊園地再整備基本計画報告書より（一部加筆）



再整備に至る流れ



再整備の始まりは・・・2015年の社会実験から。

URBAN PICNIC



AT EAST PARK, KOBE



URBAN PICNIC HPより



2016年は広場全体を使って

URBAN PICNIC ~~~~~ AT EAST PARK, KOBE



URBAN PICNIC HPより



学識者やまちづくり団体、市民代表らをおえた

再整備基本計画、設計の検討

●東遊園地再整備検討委員会

- ・市民まちづくり支援ネットワーク
- ・大阪市立大学 准教授
- ・神戸親和女子大学 教授
- ・KIITO 副センター長
- ・神戸芸術工科大学 准教授
- ・神戸大学大学院 特命准教授
- ・ルリコプランニング 代表
- ・市民代表（まちづくり協議会等）

天川	佳美
嘉名	光市
洲脇	一郎
永田	宏和
長濱	伸貴
福岡	孝則
星加	ルリコ

●東遊園地再整備事業アドバイザーボード

- ・兵庫県立大学 教授
- ・市民まちづくり支援ネットワーク
- ・大阪市立大学大学院 教授
- ・KIITO副センター長
- ・東京農業大学 准教授
- ・三ノ宮南まちづくり協議会
- ・旧居留地連絡協議会

赤澤	宏樹
天川	佳美
嘉名	光市
永田	宏和
福岡	孝則
福浪	秀光
松岡	辰弥

（役職名は設置当時のもの）



東遊園地の将来像

「BE KOBE」 神戸を誇り、神戸への愛着が育つ場所
都心を美しく彩り、新しい出会いと交流が生まれる遊園

● 人が主役の公園 -公園が人と人をつなぐ-

神戸の都心に新しい人の流れをつくり、新しい出会いと交流からにぎわいが生まれる公園。神戸の特色でもある「進取の気性」を活かし、若い世代のクリエイティブな発想・活躍を応援する公園。

● ‘神戸らしさ’が光る公園 -公園が山・海・まちをつなぐ-

旧居留地の歴史や文化が感じられる公園。旧居留地の多文化共生や新たなレクリエーション創出の精神を継承し、神戸の 海・山・まち の魅力をつなぐ拠点となる公園。

● ‘しなやかな器’となる公園 -想いやしくみをつなぐ-

市民や民間活力との連携によるマネジメントや、様々なかたちの利用を柔軟に受けとめる、持続可能な包容力のある公園。



Park-PFI(2023年に公園改修と同時に開業)

(村上工務店、ティーハウス建築設計事務所、リバブルシティイニシアティブグループ)

■Park-PFI 事業者としてのコンセプト設定

みんなのキャンパス

今回の公園リニューアルとPark-PFIを活用した運営事業は、東遊園地の可能性を大きく発展させ、都心の魅力を高められる絶好のチャンスです。そのためには、市民のサードプレイスとして、普段から繰り返し訪れる市民が増えることが大切です。

大学のキャンパスのように、日頃から通い、さまざまな文化を学び体験することで、人びとが新しい価値を創造し、交流する未来を描いて、東遊園地全体を運営するうえでのコンセプトを「みんなのキャンパス」としました。

市民が集う東遊園地は、都市と自然を同時に楽しむ神戸らしいライフスタイルを体験できる場として、神戸を訪れる人びとがまっさきに訪れたい公園へと進化します。

神戸の都心が生まれ変わる起点として、市民・地域・行政・企業が一体となったプレイスメイキングをはじめましょう。

(2019年の公募時の応募資料より)

■施設等のプランニング



東遊園地全体を活かす、プレイスメイキングの拠点

公募対象公園施設：様々なアクティビティのハブとして機能する施設で、大きなシェイド下の連続する空間にカフェ、屋内イベントスペース、小さなライブラリーを配置しました

特定公園施設：公募対象公園施設の周囲を取り巻く形で公園全体の活動をサポートし強化するランドスケープとして特定公園施設を提案します



再整備プランのデザイン・設計



- ①しなやかな器となる広場、Park-PFI施設等との連続性
- ②まちとつながるエントランス
- ③園内の段差や東西の分断感を解消し、一体感を増す造成



空間構造の改修ポイント①

しなやかな器となる広場、Park-PFI施設等との連続性



芝生ひろば



芝生ひろば（ガーデンステージ）



見晴らしひろば



みちひろば



みちひろば

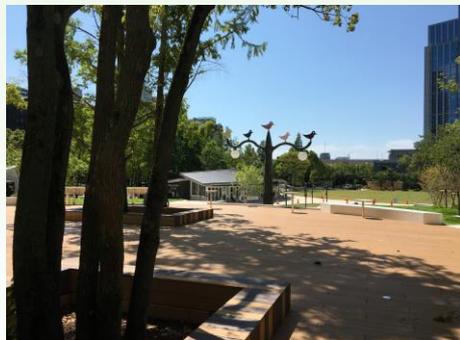


緑陰を活かし、多彩な ベンチやテーブルを設置

利用者が思い思いに自分の居場所を作る

Naturalistic Landscaping と Floral Installation

街中で自然を感じられる新しい緑化手法を
市民や造園事業者とともに育み、広げていく



時には華やかに
花で演出する



空間構造の改修ポイント②

まちとつながるエントランス



- メインエントランスの改善、歩道との一体化により、自然と公園内に人を誘う形とした
- 同時に園内を見通すことができるようにして、人びとの活動の様子が伝わるようにした



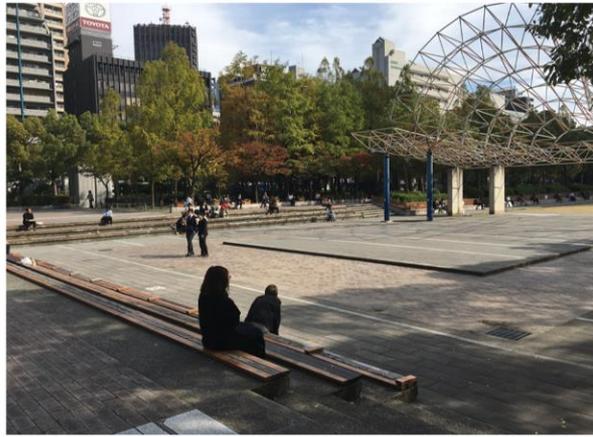


- 旧居留地側は、天井川の名残の高低差が残るが、エントランス拡幅により、入りやすく、園内の様子が感じられるようにした
- デザインされたサインの園名サイン等の設置により、公園の存在をよりアピールできるようにした





空間構造の改修ポイント③ 園内の段差や東西の分断感を解消し、一体感を増す工夫

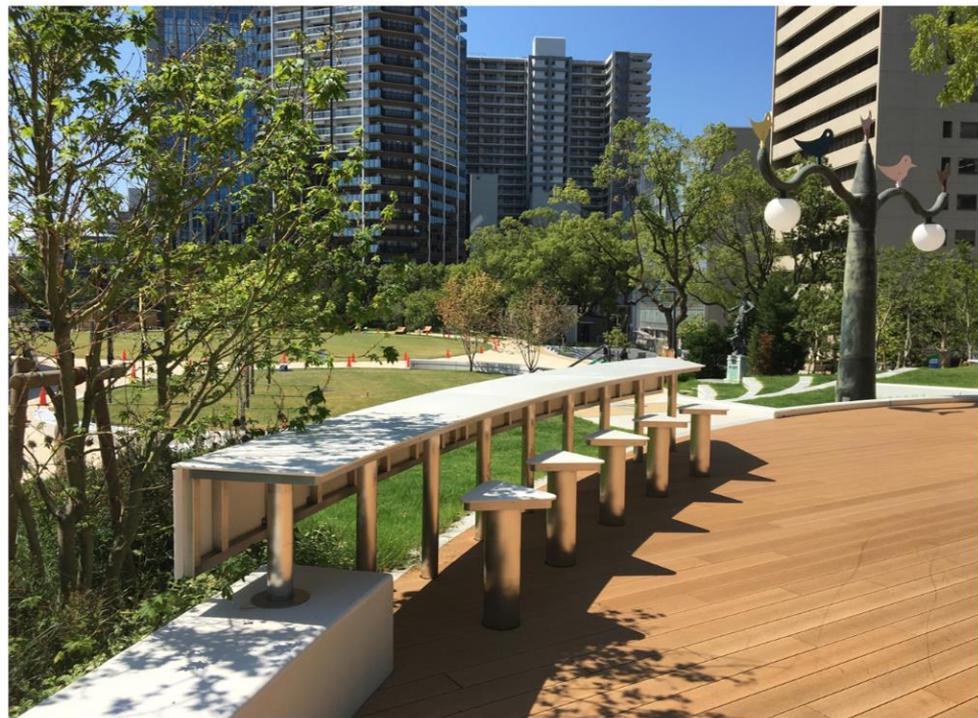


- 元地形による高低差、細かな園内の段差、低木植栽等によって、東西方向の見通しが悪く、通りづらい構造になっていた
- 全体的な地盤高の見直し、出入口の拡大・増加、園内動線の改良等によりフラワーロード-東遊園地-旧居留地の連続性や一体感を向上





- 段差が残る箇所は、階段型のテラスベンチや、園内を見渡せる見晴らしひろばとして活用



BE KOBE

これまで東遊園地に関わった方々、
これから東遊園地を愛して下さる皆さんに
代わって、報告をさせていただきました

資料出典

- 東遊園地と居留外国人（神戸市教育委員会、神戸市立博物館）
- 神戸市、神戸市立博物館、神戸市立中央図書館 HP
- URBAN PICNIC HP
- (一社)リバブルシティイニシアティブ HP

